

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立東与賀中学校		
1 前年度 評価結果の概要	総合評価A…未達成の項目はあるが、『学び合い』と開発的生徒指導による教育活動の成果がさらに定着してきており、職員集団も同じ目標で取り組むことで、より多くの生徒が安心して過ごすことができる学校になってきている。 ・令和5年度に引き続き『学び合い』、開発的生徒指導により、生徒が自発的に取り組む場を仕組むことで主体性を伸ばしてきた。わからないことは、はずかしいことではない。それを乗り越えることが大事。よって、社会の中でわからないと言え、尋ねることができると、言いたいことが言えること、今後もこのような力を身に付けさせることが大事と考える。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進については校時限、学校行事、部活動、会議等の工夫をし、職員が時間を意識し計画的に業務に取り組むようになった。しかし、実際の業務量が多く、時間外勤務の削減は難しかった。時間や業務内容について、子どもを中心に据えた上でのさらなる精選を行う。		
2 学校教育目標	「凜」とした元気・感動・温もりのある学校 ～ 夢実現に挑戦し努力する生徒の育成～		
3 本年度の重点目標	①『学び合い』の視点を取り入れた、確かな学力の育成 ②「考え、議論する」ことにより道徳性や豊かな心を育む ③『学び合い』や開発的生徒指導を通して、主体性を育む		

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	○「分かる授業」を目指した、指導方法・評価方法の工夫改善の推進 ○先生は、私たちが分かりやすい授業を目指して工夫していると思う生徒93%以上 ○学校は、生徒が分かりやすい授業をめざし、学習内容や指導方法を工夫していると思う保護者80%以上	○校内研究において『学び合い』の研修と実践 ・教科・領域の授業改善、指導力向上を目指した外部講師招聘等を織り込んだ校内研究会の定期開催 ・一人1回以上の研究授業実施	B
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○道徳の授業で自分のことや友だち、家族のことをじっくり考えることができていると思う生徒93%以上 ○道徳の授業や立志式などを通して、心を育てる教育を行っていると思う保護者88%以上 ○私はいじめゼロをめざした取組を行っていると思う生徒100% ○学校は、いじめをなくし命を大切にしていると思う保護者90%以上 ○いじめの未然防止、早期発見・早期対応に向けた取組を行っていると思う教員100%	・話し合う時間の設定 ・学年合同や異学年合同で多様な考えに触れる場の設定 ・教員の指導力向上を図る、全学級での道徳授業実践の相互参観 ・毎月の「いじめ・いのちを考える日」の取組と「生活アンケート」の実施 ・各種調査等によるきめ細かな生徒の実態把握 ・学年⇄生徒指導部の連携した組織的対応と、早急な対応による事案の解決	B	○【達成】道徳の授業で自分のことや友だち、家族のことをじっくり考えることができていると思う生徒93% ○【未達成】道徳の授業や立志式などを通して、心を育てる教育を行っていると思う保護者87% ・道徳の授業において話し合い活動を設定したり、人とのつながりについて考えさせたりする活動が生徒の道徳的な価値の育成にもつながった。 ・道徳の授業の話題などを家庭にも提供して、心を育てる教育への理解を深めるとともに、家庭と連携した道徳的な価値の育成にもつながっている。	B	・心を育てる教育の評価を行うのは難しいが、立志式など積極的に進められている。 ・学校からの情報発信がもう少し必要である。 ・家庭の教育力を向上させるためにも情報発信し、学校に関心をもってもらうことが大切である。
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」	②学校は、望ましい生活習慣を身に付けさせるための指導を適切に行っていると思う保護者85%以上 ③「健康に良い食事をしている」児童生徒85%以上 ④児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする	・『学び合い』の授業や学校行事などにおいて、生徒が主体的に活動する場面を設け、全職員による開発的生徒指導を実践（生徒の出番と承認の場面の設定など） ・「特別な教科道徳」、「社会人に学ぶ」、「職場体験」の実施による、実社会に即した話を聞いたり、体験活動をしつづける機会の設定 ・保健便り等を通じた、朝食喫食率の向上、早寝早起きの意義の理解と啓発 ・朝食をとらずに登校する生徒の保護者への連絡、保護者面談での協力要請 ・PTAの委員会活動との協同 ・毎月1回の安全点検実施 ・職員・生徒の危機管理意識の向上のための避難訓練（年2回）の実施 ・健康増進と体力向上を目指した適度な運動の奨励	A	②【達成】学校は、望ましい生活習慣を身に付けさせるための指導を適切に行っていると思う保護者89% ③【達成】「健康に良い食事をしている」児童生徒91% ④【達成】児童生徒の交通事故0（ゼロ）にする ・給食指導や保健だより等を通して、健康に良い食事をとることの大切さを伝え、実践をさせていきたい。 ・時間的なゆとり、気持ちの面でのゆとりをもつて登下校できるように日々の生活リズムを整えていく。 ・具体的な交通規則を定期的に確認し、自分の登下校時の姿や自転車の乗り方について振り返りをさせていく。	A	・生徒の教師に対する評価がよいので、これからも適に応じた相談体制を継続してほしい。 ・開発的生徒指導で生徒に出番・役割・承認の機会を設定しているのはよい。 ・将来の夢や目標をもつことができるよう、一人一人への相談指導の機会を増やすことができたらさらによりよい。 ・中学生には、難しい問題である。夢や目標が変わってもよいことを教えることも大切ではないか。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・現状把握と対策の検討、働き方改革の周知のための健康管理委員会の実施 ・定時退勤日の設定、実施 ・職員会議等の協議内容を精選し、ペーパーレスにして終了時間を意識した業務改善 ・年休取得可能な日時を設定する。また、行事や週時間割等の提案をできるだけ早くし、見直しをもって年休取得ができるようにする。	B	④4月～12月時間外勤務45時間未満78.8%、4月～12月時間外勤務45時間以上～60時間未満20.7% ●【未達成】年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上は48% ・時間外勤務45時間未満は昨年より7%増え、45時間以上～60時間未満も6%ほど減っており、業務改善が進みつつあると考える。 ・年休取得は、学校・学年の行事等の精選を進め、年休をとることのできる取得可能日や時間帯を広げたい必要がある。	A	・年休を取りやすいということは、職員間の協力的体制ができていて良い職場だと考える。 ・勤務時間内で終わらないことが多くあるかもしれないが、教材研究等勤務時間内でできるよう引き続き工夫を重ねてほしい。 ・部活動等の先生方の配置にも難しさがあるのではないかと。部活動で空き時間が少なくなっていることも働き方に大きくかかっていると言える。
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上したと思う教員75%以上	・特別支援に関する研修会の1回以上実施及び定例会議・研修時のプチ研の実施 ・ケース会議の開催、情報共有	B	【未達成】○特別支援に関する専門性が向上したと思う教員54% ・職員の困り感をもとに特別支援に関する専門性を高める教師間ミーティングや外部講師を招いた研修会等を設定していく。	B	・特別支援に関しては、常に研修等で学ばれていると思うが、専門性を高めていくのは難しいところがある。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○魅力ある学校づくり	○東与賀中学校へ入学してよかったと思う生徒85%以上 ○東与賀中学校へ自分の子どもを通学させて良かったと思う保護者85%以上	・上記全ての取組（再掲）	A

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 *総合評価B…昨年度より成果指標が高かった項目もめ、達成度は低くなっている。ただし、「東与賀中へ入学してよかった」「東与賀中学校へ自分の子どもを入学させて良かった」の両項目はとも達成し、心の教育等も昨年度よりポイントが伸びているものもあり、『学び合い』や開発的生徒指導による日々の教育活動が成果として定着していると考え。 ・昨年度に引き続き、職員の共通理解のもと開発的生徒指導、『学び合い』を進めてきた。開発的生徒指導については、出番・役割・承認のサイクルのもと生徒自身が活躍し、認め合う好循環が生まれてきている。『学び合い』については、本年度、教師主導の取組が表に多く出たところがあった。今年、教師側が作成した「目指す集団の姿」を生徒達が自分の言葉で表現し、実践していく場を設けるなど、子どもたちと教師が力を合わせて授業を創っていく取組を進めていきたい。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、学校行事、部活動、会議等の工夫をし、職員が時間を意識して計画的に業務に取り組むようになってきた。年次休暇取得については、年休取得が可能な日や時間帯をつくるため、子どもを中心に据えた上での業務内容の整理を行う。
----------------	--